

# WEB倉商新聞

倉商新聞

WEB 6月号

倉商新聞部

## 緊急事態宣言解除

六月二十日に緊急事態宣言が解除されました。活動を自粛していた部活動も、二十一日からは活動することが可能になりました。私たち新聞部を含め、大会やコンクールなどが無い部活動は活動を停止していましたが、やっと再開です。

しかし、大会があった部も、三年生の多くが最後の大会を終え、引退の時期を迎えました。大変な状況の下、一杯頑張っていた三年生のみなさん、お疲れさまでした。これから大会を控えている三年生のみなさん、頑張ってください。

部活動や学校行事が思うようにできない中、感染対策のため、皆よく努力をしましたが、今後は解除されましたが、今後も基本的な感染対策は徹底していきましよう。一日も早く通常の活動ができるようになることを祈っています。

## 定期戦中止決定

多くの人が楽しみにしていた岡山東商業高校との定期戦の中止が発表されました。歴史と伝統のある行事が、昨年に引き続き今年も中止になりました。

三年生の心残りは、経験のない一、二年生が来年は中心になって定期戦を戦うことです。大変な役割ですが、倉商の伝統の行事として、次につないでほしいと強く願います。定期戦だけではなく、倉商祭なども例外ではありません。

ところで、定期戦の代替イベントはあるのでしょうか。そういった声も少なくありません。



三年国語通信「今、ここで」

## 妹尾和弘先生おすすめの本

食卓には解剖図鑑シリーズ。寝室には吉川英治。休日には町中の書店に足が向く。新聞部の依頼で、四月から読んだ本を振り返ってみる。三年生を担当しているから圧倒的に新書が多くなっている。

『還暦からの底力』（出口治明）、『自分の頭で考える 日本の論点』（出口治明）、『思考中毒になる！』（斎藤孝）、『たちどまって考える』（ヤマザキマリ）、『JR上野駅公園口』（柳美里）、『自律する子の育て方』（工藤勇一）、『青砥瑞人』、『非常識な教え』（工藤の資本論』（斎藤幸平）、『スマホ脳』（アンデシュ・ハンセン）、『仏像に会う』（西山厚）、『感染症の日本史』（磯田道史）、『新型コロナの科学』（黒木登志夫）、『コロナ後の世界を生きる』（村上陽一郎）、『生き方』（稲盛和夫）、『心』（稲盛和夫）、『道をひらく』（松下幸之助）、『1日1話読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書』（藤尾秀昭）など。

こうやって並べてみると、その時、自分が何を考え、何をしようとしていたのかが分かる。一冊の本を読み終えた後いつも浮かんでくるのは、先輩教員の「教師は傲慢であってはけません。」という戒めと、これから難解な問題読解や小論文、面接に挑む若者の姿である。彼らに確かな「今、ここで」を提供出来ているだろうか、そういう思いに抗いながら、今日も本に手を伸ばしている。

三年七組担任